

2024年9月期 通期決算説明会

三洋貿易株式会社（証券コード：3176）

2024年11月15日

本日のトピックス

1 売上、利益ともに過去最高を更新

2 全セグメント増収・増益
海外現地法人が好調(アメリカ・タイ・メキシコ)

3 SANYO VISION 2028で掲げた重点施策・財務目標
実現に向け好発進

4 株主還元方針
配当性向30%以上を目途に累進配当を継続

目次

- 01 2024年9月期 実績
- 02 2025年9月期 業績予想
- 03 SANYO VISION 2028の進捗
- 04 成長への布石

01

01

2024年9月期 実績

02

2025年9月期 業績予想

03

SANYO VISION 2028の進捗

04

成長への布石

2024年9月期 連結実績

■ 2Q時に上方修正した業績見通しを過達し、売上、営業利益ともに過去最高を更新

| (単位：百万円) | 2023年9月期 | 2024年9月期 | | |
|---------------------|-------------------|----------------------|--------------------------|---------------|
| | 通期 | 通期 | | |
| | 実績 | 修正計画 (2024/5/9公表) | 実績 | 前期比 |
| 売上高 | 120,525 | 126,000 | 129,263 | +7.2% |
| 売上総利益 (売上総利益率) | 20,105 (16.7%) | | 22,229 (17.2%) | +10.6% |
| 販売費および 一般管理費 | 13,578 | | 15,156 | +11.6% |
| 営業利益 (営業利益率) | 6,527 (5.4%) | 6,800 (5.4%) | 7,072 (5.5%) | +8.4% |
| 経常利益 (経常利益率) | 7,090 (5.9%) | 7,500 (6.0%) | 7,905 (6.1%) | +11.5% |
| 親会社株主に帰属 する当期純利益 | 4,785 | 4,900 | 5,207 | +8.8% |
| EPS(円) | 166.43 | 170.22 | 180.88 | - |

※2024年9月期より、為替を期中平均レートで換算しています(変更前：期末日の為替レート)。それに伴い2023年9月期の実績を遡及修正しています。

セグメント別 決算サマリー

売上高 前年同期比

+87.3億円 (+7.2%)

(単位：百万円)



営業利益 前年同期比

+5.4億円 (+8.4%)

(単位：百万円)



化成品
増収・増益

機械資材
増収・増益

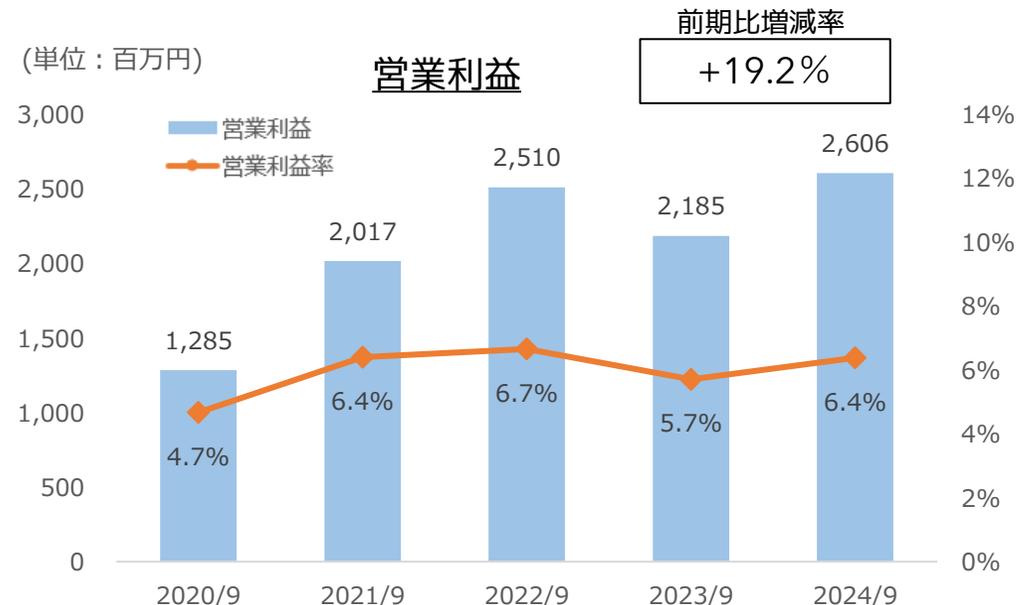
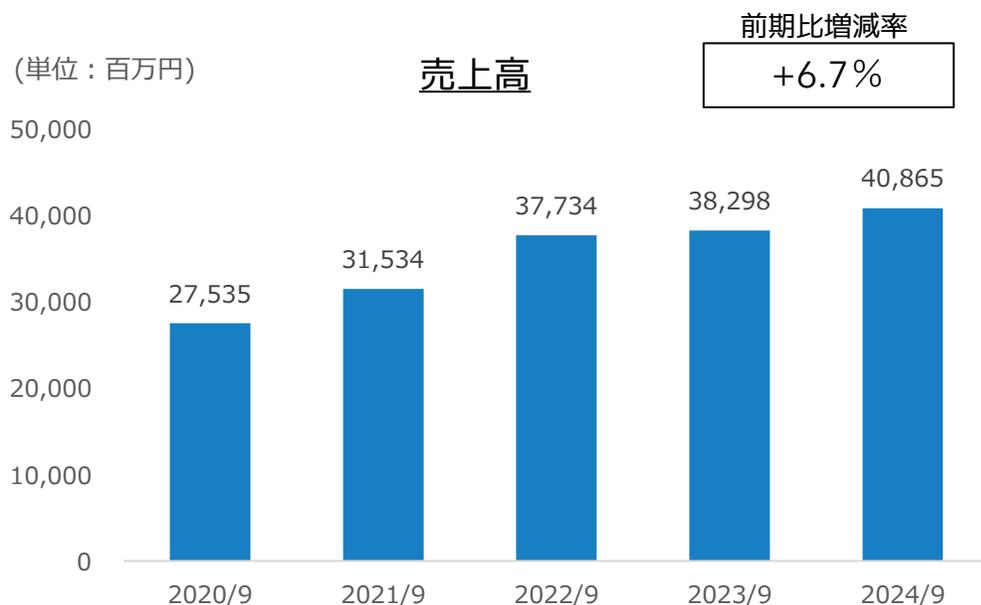
海外現地法人
増収・増益

※2024年9月期より、為替を期中平均レートで換算しています
(変更前：期末日の為替レート)。
それに伴い2023年9月期の実績を遡及修正しています。

化成品セグメント

【ゴム事業部、化学品事業部、ライフサイエンス事業部（マテリアルソリューション：MS）およびグループ会社】

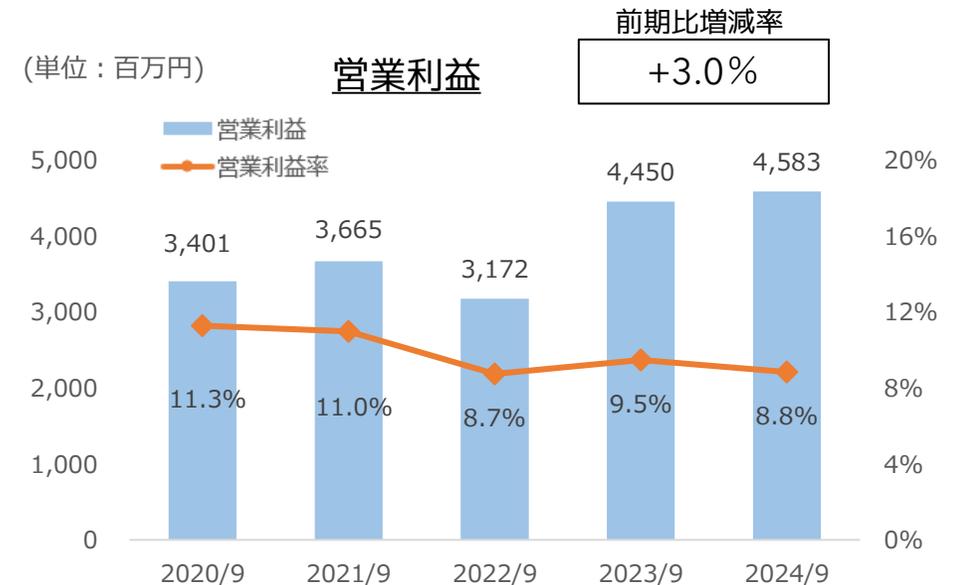
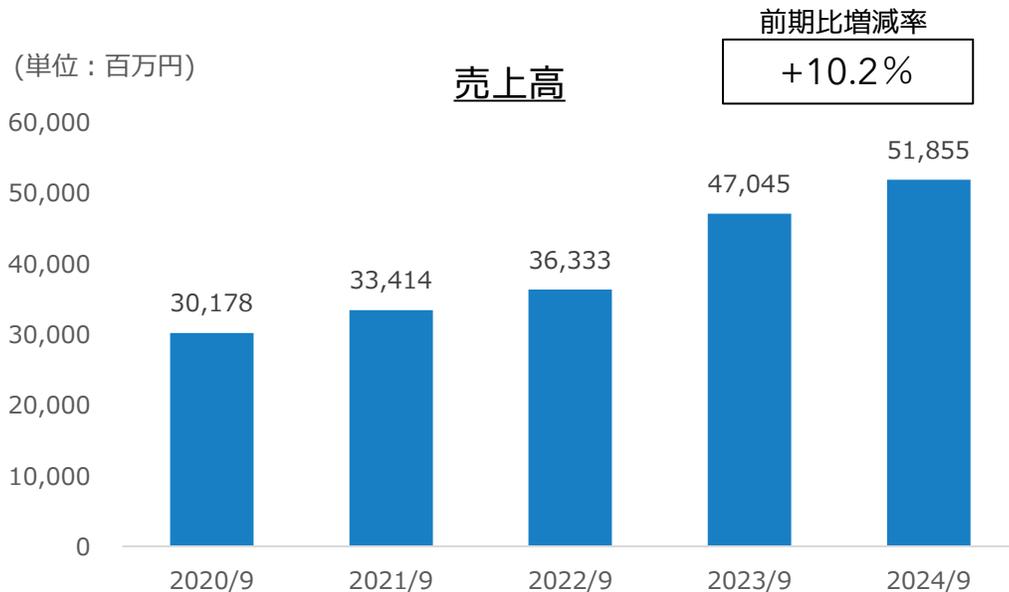
| 事業部 | 通期の状況 |
|---------------|---|
| ゴム | ・国内向け原材料需要の好調継続に加え、円安の進行による輸入品の販売価格見直しや高付加価値商材の副資材の販売増加で、売上、利益ともに堅調に推移 |
| 化学品 | ・円安影響などを受けて仕入価格が高騰するも、販売価格見直し対応を進めたことで利益率の改善が進行。また、主力商材も好調となり売上、利益ともに好調 |
| ライフサイエンス (MS) | ・主力商材の放熱製品や界面活性剤が好調なことや、円安を背景に電材が利益貢献し売上、利益ともに堅調 |



機械資材セグメント

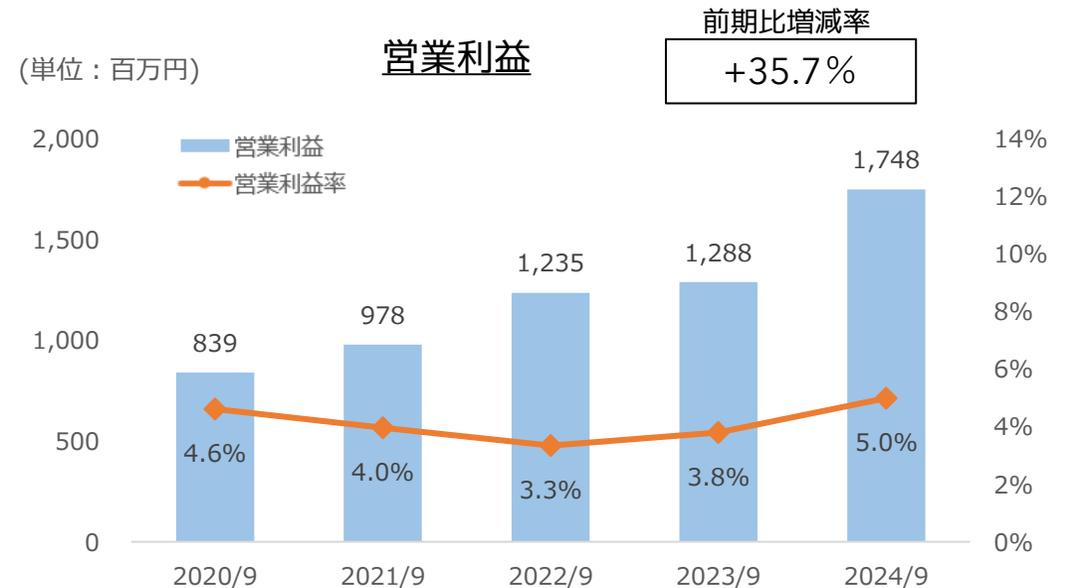
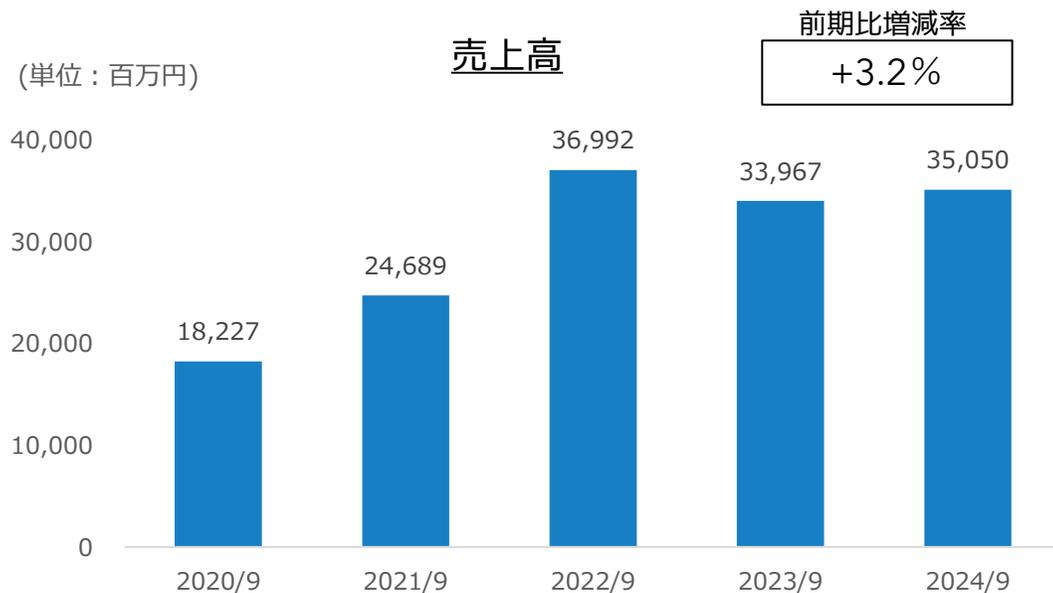
【産業資材第一/第二事業部、グリーンテクノロジー事業部、ライフサイエンス事業部（科学機器）、エネルギーソリューション事業室、バイオフィロンティア事業室、およびグループ会社】

| 事業部 | 通期の状況 |
|----------------|--|
| 産業資材 | ・日系自動車メーカーの生産好調により売上は堅調に推移も、利益率は微減 |
| グリーンテクノロジー | <ul style="list-style-type: none"> ・飼料加工機器：飼料加工機器の本体納入および関連消耗品販売が堅調 ・木質バイオマス：大型案件の一部で計上があり、売上、利益ともに好転 ・コスモス商事：地熱関連機材や石油・ガス関連機材が低調も海洋開発分野が好調 ・ワイピーテック：主力商品の需要が弱含み、利益は前期比ダウン |
| ライフサイエンス（科学機器） | <ul style="list-style-type: none"> ・仕入価格上昇や円安影響等で販売価格が上昇、それに伴う受注減少で売上、利益ともに前期比ダウン ・スクラムが取扱うバイオ分野の研究支援機器は遺伝子解析関連を中心に好調 |



海外現地法人セグメント 【アメリカ・中国・タイ・ベトナム・メキシコ・インドネシア・インド】

| 事業部 | 通期の状況 |
|--------|--|
| 海外現地法人 | <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ : 高機能性樹脂の販売単価下落で減収も、フィルム関連や自動車関連の堅調で増益 ・中国 : 景気影響を受けた日系自動車メーカーの減産影響により売上、利益ともにダウン ・タイ : 自動車関連が好調で利益に貢献 ・その他地域 : (メキシコ)自動車関連、ゴム関連が好調。(ベトナム)掘削資材の新規立ち上げやゴム、化学品関連が好調。(インドネシア)ゴム関連の一時的な需要増で好調 |



※2024/9期：為替を期中平均レートで換算しています(変更前：期末日の為替レート)。それに伴い2023/9期の実績を遡及修正しています。

02

- 01 2024年9月期 実績
- 02 2025年9月期 業績予想
- 03 SANYO VISION 2028の進捗
- 04 成長への布石

2025年9月期 業績予想

- 売上高 : 不透明な事業環境下ながら、過去最高を記録した前期超えを予想
- 営業利益 : バイオ関連機器の代理店契約終了や、自動車シート用本革の取り扱い終了の影響を受けつつも、木質バイオマス関連の収益貢献や洋上風力機器の拡販で前期並みを予想

(単位：百万円)

| | 2024年9月期実績 | | 2025年9月期予想 | |
|---------------------|-------------------|--------|------------------------|--------------|
| | 実績 | 前期比 | 予想 | 前期比 |
| 売上高 | 129,263 | +7.2% | 132,000 | +2.1% |
| 売上総利益 (売上総利益率) | 22,229 (17.2%) | +10.6% | | |
| 販売費および 一般管理費 | 15,156 | +11.6% | | |
| 営業利益 (営業利益率) | 7,072 (5.5%) | +8.4% | 7,100 (5.4%) | +0.4% |
| 経常利益 (経常利益率) | 7,905 (6.1%) | +11.5% | 7,500 (5.7%) | ▲5.1% |
| 親会社株主に帰属 する当期純利益 | 5,207 | +8.8% | 4,900 | ▲5.9% |
| EPS(円) | 180.88 | - | 170.17 | - |

株主還元について

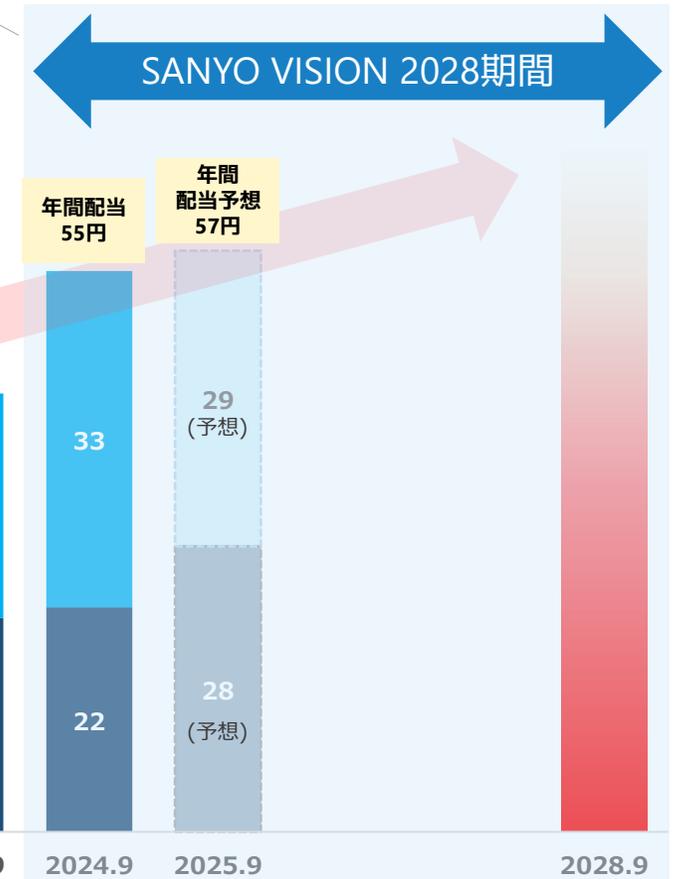
- 修正計画を上回る通期業績を踏まえ、期末配当を23円から33円に増額 ※年間配当55円
- 継続的な増配・安定配当を行う基本方針のもと、SANYO VISION 2028期間の配当は、「**配当性向30%以上**」を目標に「**累進配当**」を継続

(配当額：円)

1株あたり配当推移

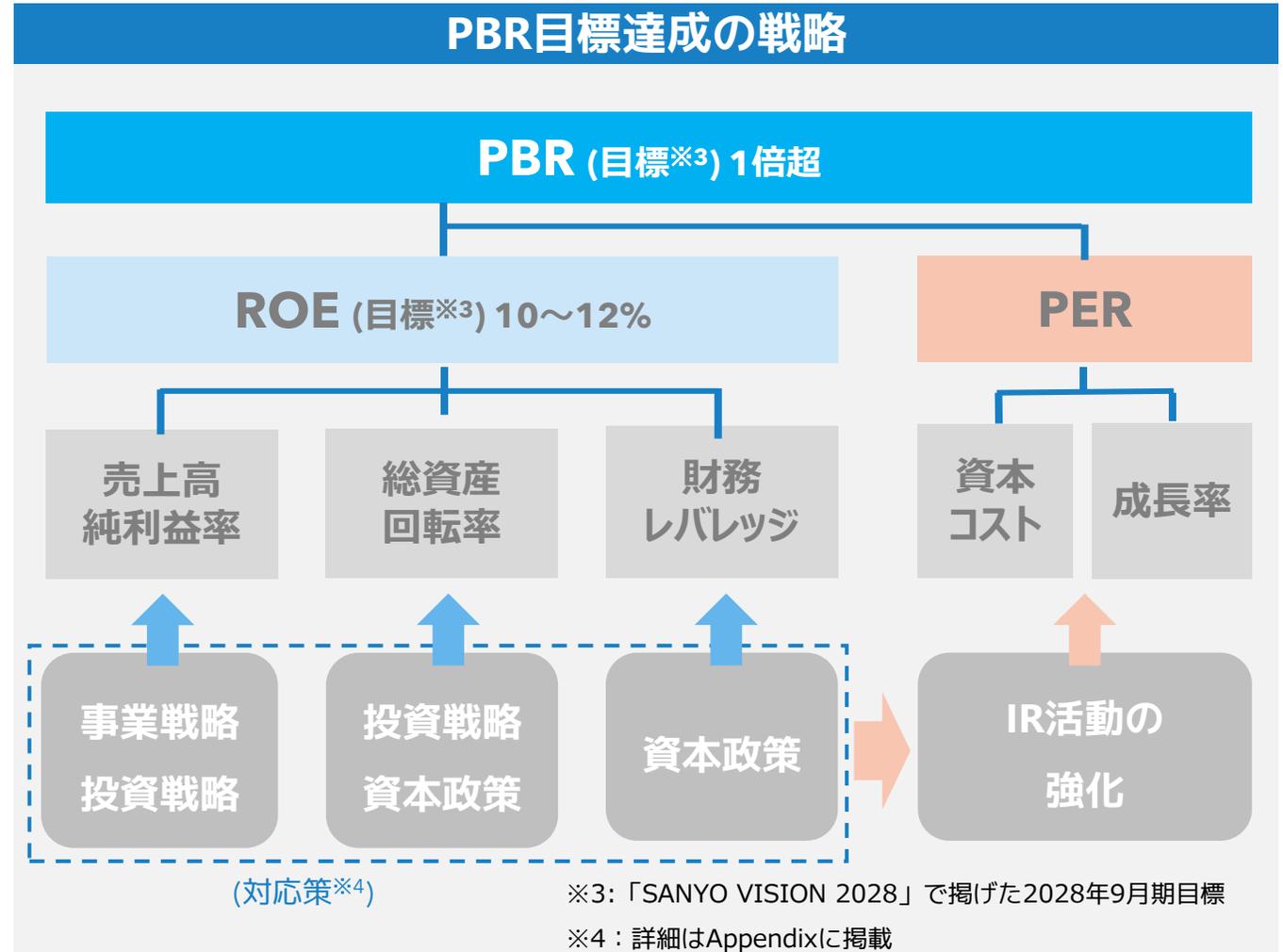
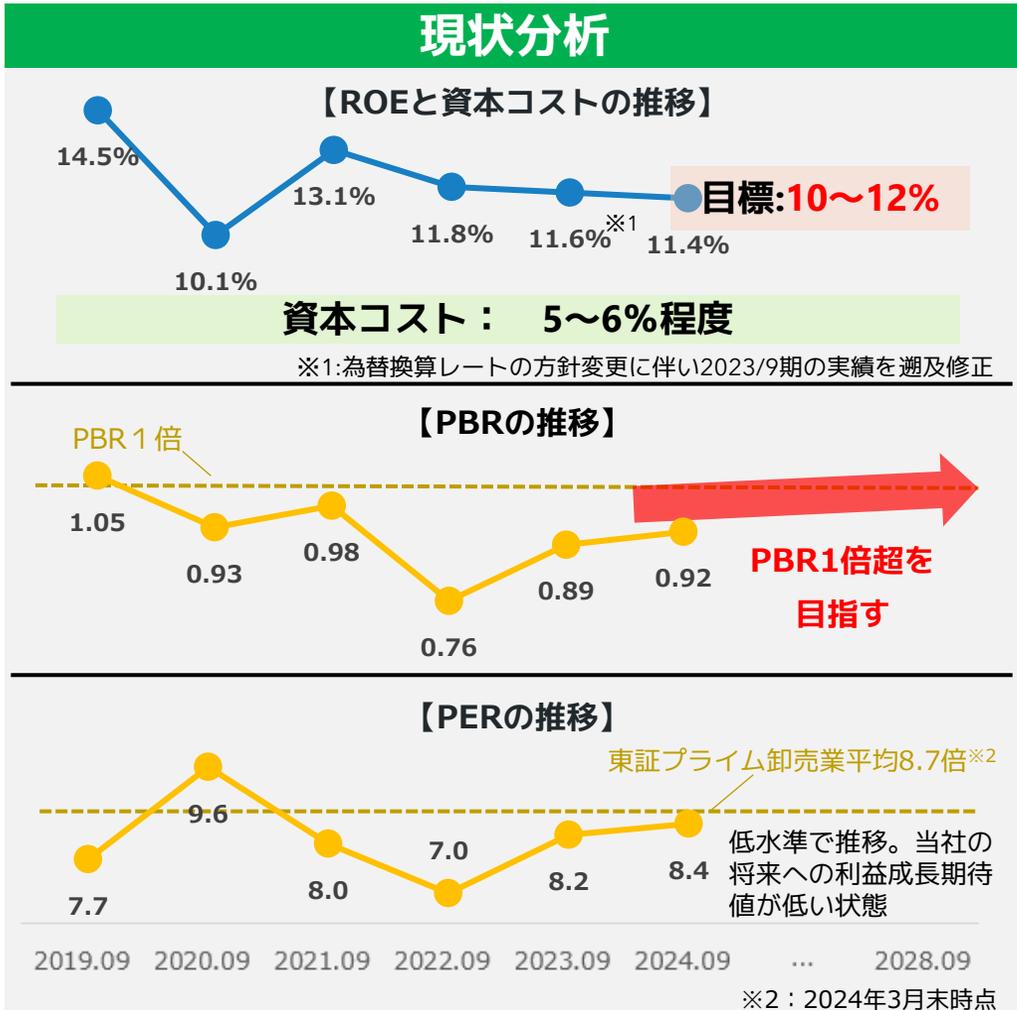
■ 中間配当 ■ 期末配当

SANYO VISION 2028期間は「**配当性向30%以上**」・「**累進配当**」



資本コストと株価を意識した経営

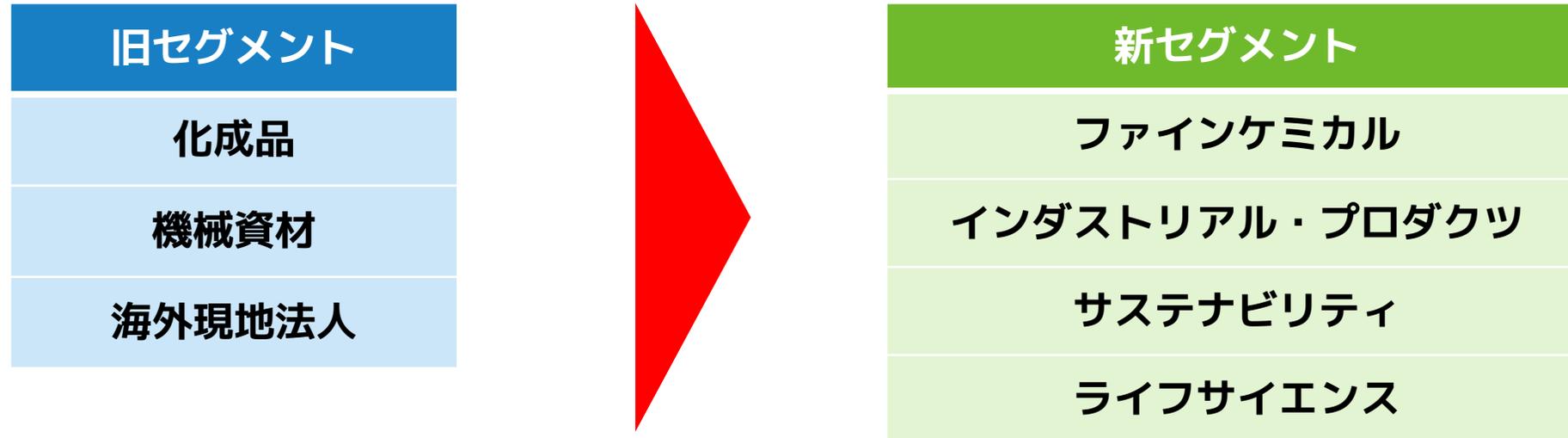
- ROEは11.4%で着地。目標ROE10~12%圏内
- 資本コストを上回るROEの水準を継続しながら、PBR > 1の常態化を目指す



お知らせ

- 2025年9月期**第1四半期より報告セグメントを変更** (当社HPにて9/10に開示済み)
- 目的：経営資源の最適配分および業績進捗を適時適切に管理し、資本市場へより明確に開示する

(報告セグメント)



(地域別売上)

- 日本、北米、中国、ASEAN、その他(インド・欧州等)に変更 ※現在は日本、アメリカ、中国、その他

03

01

2024年9月期 実績

02

2025年9月期 業績予想

03

SANYO VISION 2028の進捗

04

成長への布石

SANYO VISION 2028 財務目標の進捗状況

- SANYO VISION 2028の初年度は以下の通り着地。2028年の目標達成に向けて視界良好
- PBRは前期末から着実に改善中。引き続きPBR>1に向け企業価値向上に努める

| | 目標 (2028年9月期) | 結果 (2024年9月期 通期) | 評価 |
|--------|------------------|--------------------------------------|----|
| ROE | 10~12% | 11.4% | ◎ |
| 営業利益 | 90億円 | 68億円 ⇒ 70億円 (上方修正目標) | ◎ |
| 営業利益率 | 5.1% | 5.5% | ◎ |
| 営業CF | 黒字 | 54億円(黒字) | ◎ |
| 自己資本比率 | 50%以上 | 63.3% | ◎ |
| PBR | 1倍超 | 0.89 ⇒ 0.92 (2023年9月末) (2024年9月末) | △ |

2028年9月期に向けた成長戦略

- SANYO VISION 2028の目標である**営業利益90億円**達成に向け、投資を有効的に実施
- 成長戦略は「**三本の矢**」

成長投資の対象

事業投資

DX関連
投資

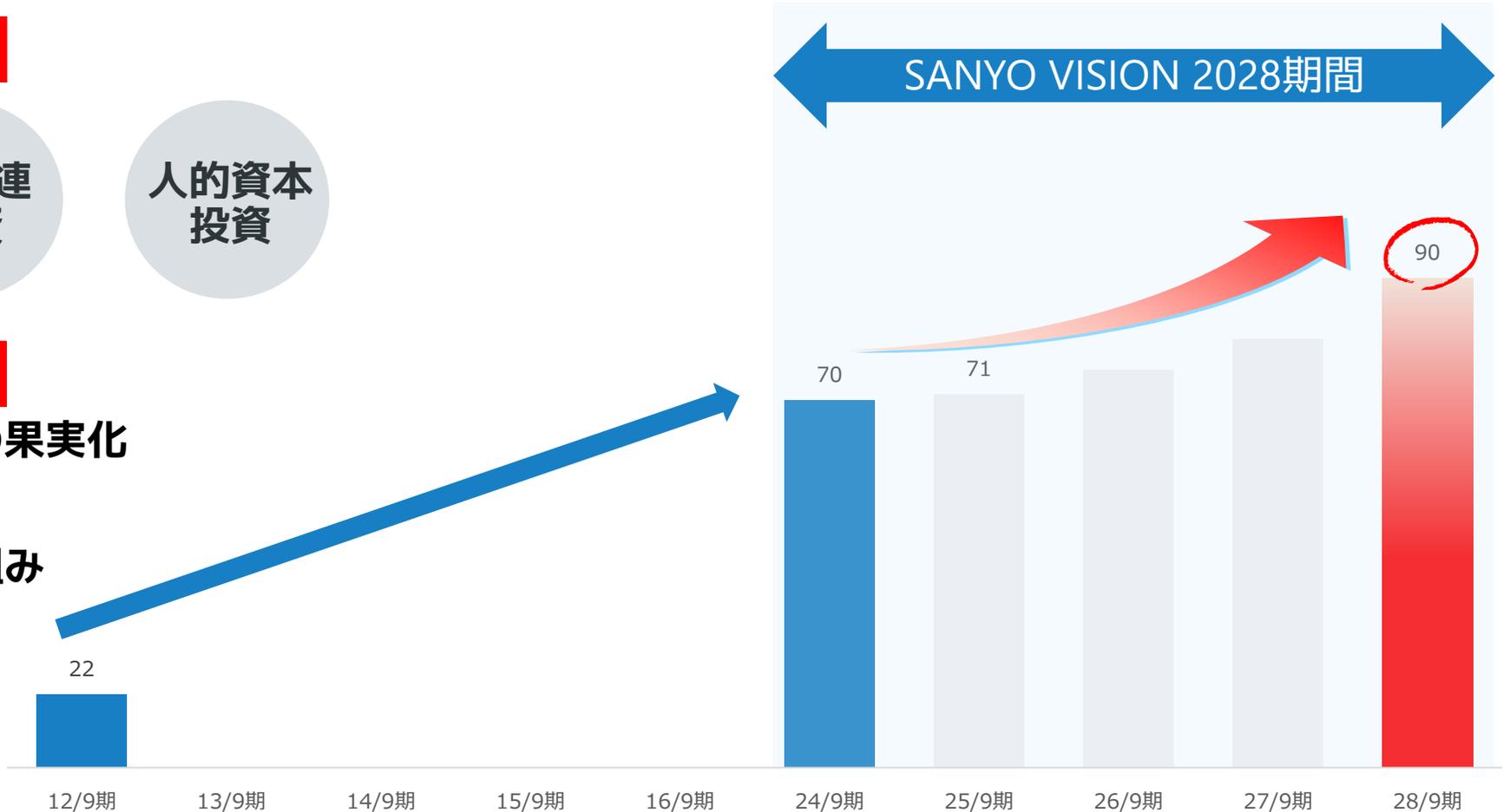
人的資本
投資

成長戦略：三本の矢

- 潜在コアビジネスの果実化
- M&Aの推進
- 事業開発室の取り組み

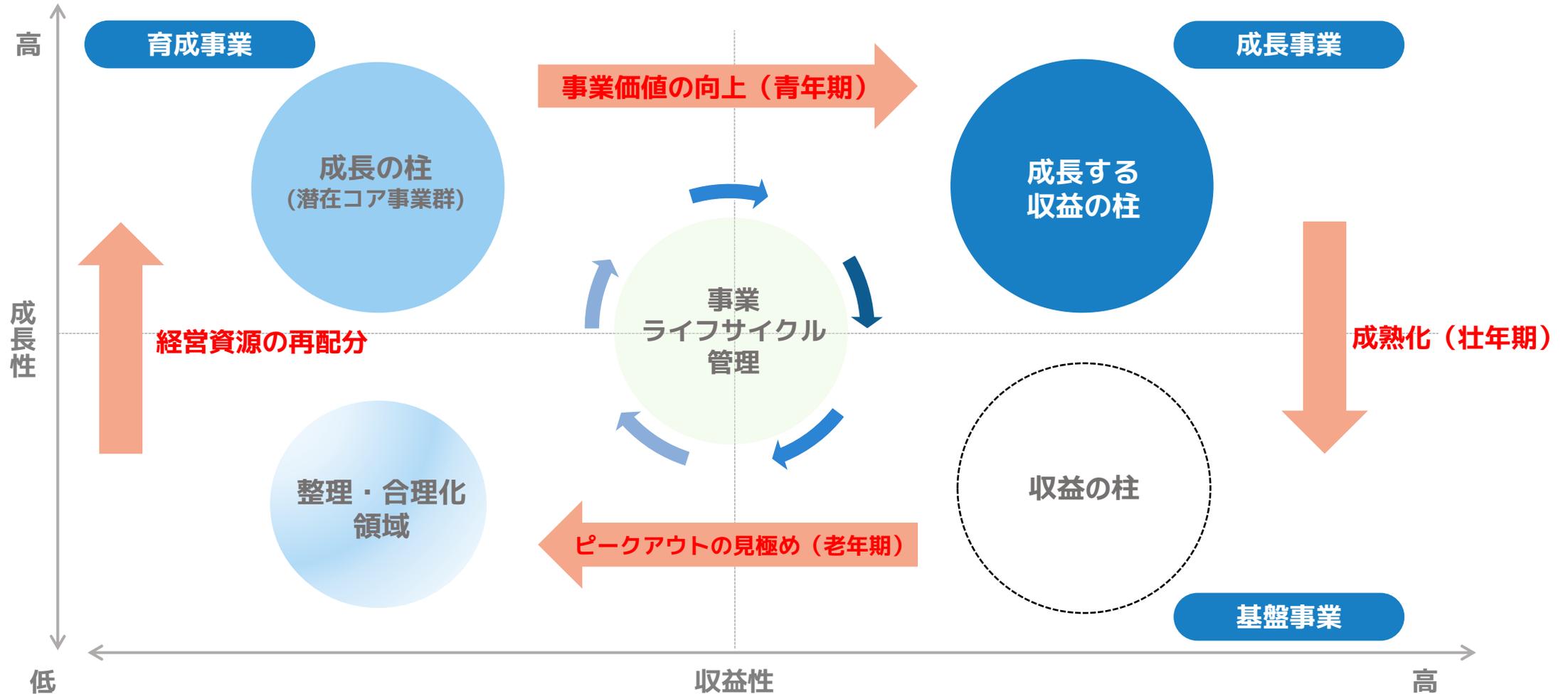
営業利益額の推移

(単位：億円)



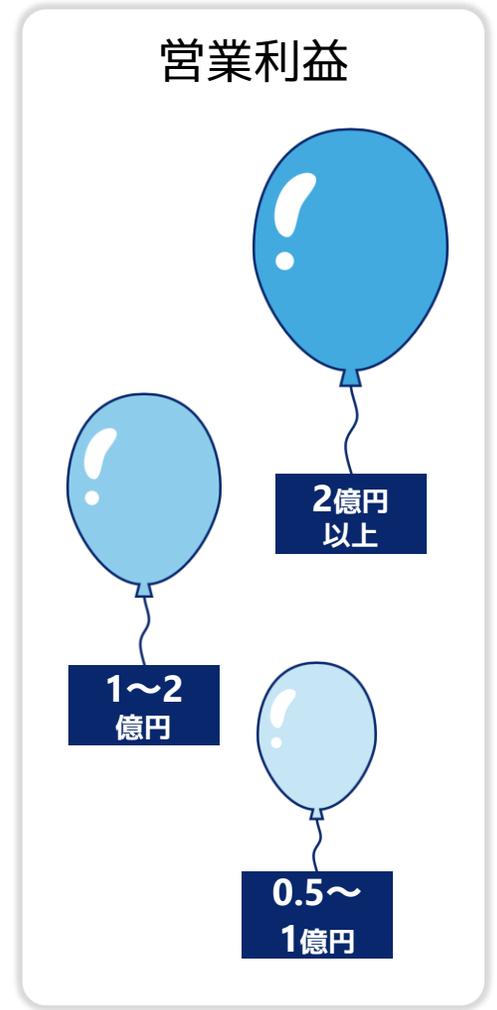
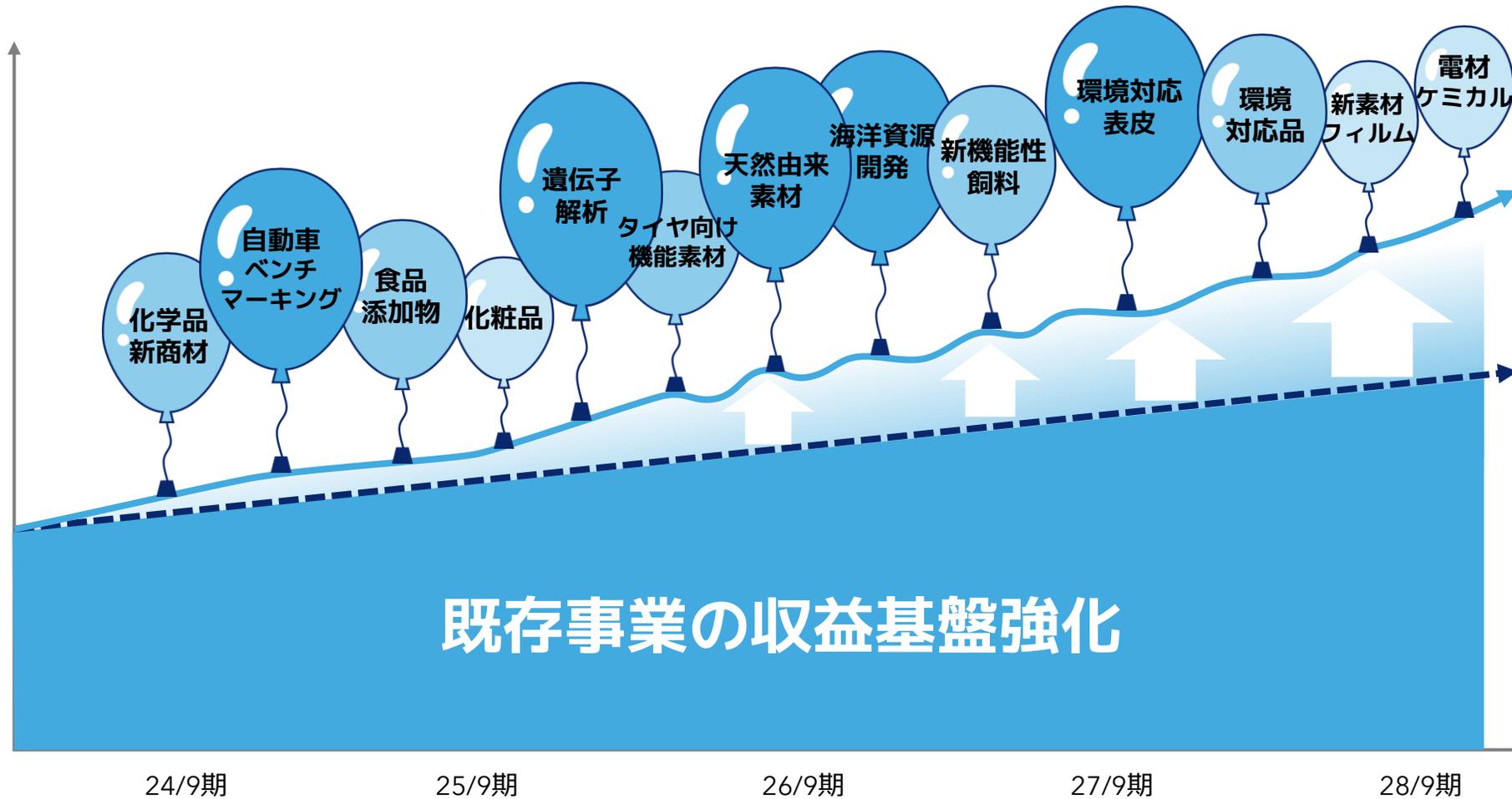
事業ポートフォリオの不断の組み換え

- 将来の収益の柱となる事業の発掘・育成を推進
- 経営リソースを戦略的に傾斜配分し、成長を加速



潜在コア事業案件の進捗

■ 将来の柱商内となる潜在性を秘めた案件開拓と果実化を推進



04

- 01 2024年9月期 実績
- 02 2025年9月期 業績予想
- 03 SANYO VISION 2028の進捗
- 04 成長への布石

成長領域への注力



エネルギーソリューション事業室(2024年4月1日付でコスモス商事を移管)

サステナビリティ

洋上風力発電

「再生可能エネルギーの開発を通じ、幸福で持続可能な社会創りに貢献する」

- 洋上風力発電に関わる機器の提供により再生可能エネルギーの発展に貢献
- 多種多様な機器の取り扱いにより、お客様へのトータルソリューション提供が可能

【着床式 洋上風力発電】



水深の浅い海域での着床式

【浮体式 洋上風力発電】

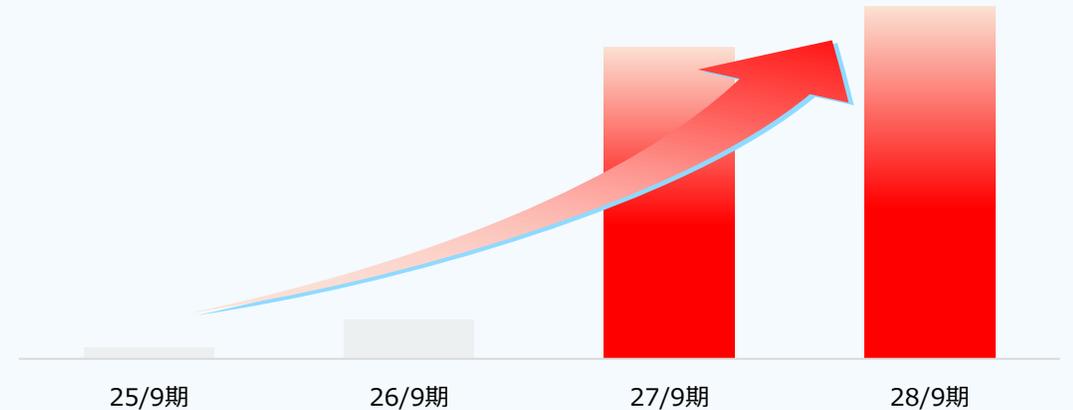


水深の深い海域での浮体式

より広い海域での風力発電の実施が可能で、今まで設置が適わなかった海域での発電を可能とする技術として期待

(洋上風力発電 売上金額イメージ)

※着床式、浮体式の合算



- 足元では着床式が収益の中心であり、徐々に浮体式が進行中
- 浮体式の進行に伴い27/9期から本格的な収益化実現を目指す

新規ビジネスの開拓 - 潜在コア事業の果実化 -

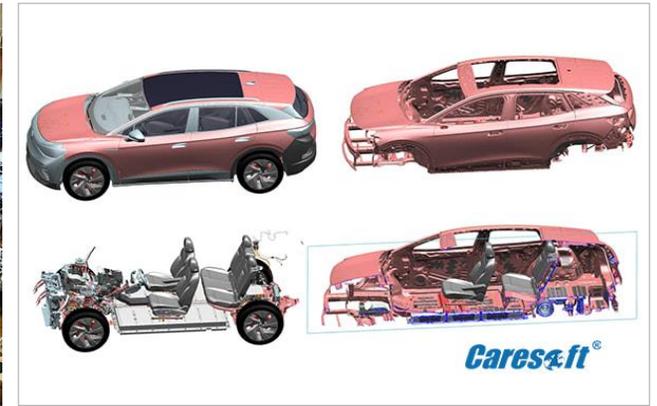
インダストリアル・プロダクツ

自動車ベンチマーキング事業の深化

- 電動化で先行するグローバル企業車種を細部まで分解
- 日系メーカーへ最先端の研究材料を提供
- 事業領域の拡大「モノ売り」から「コト売り」へ

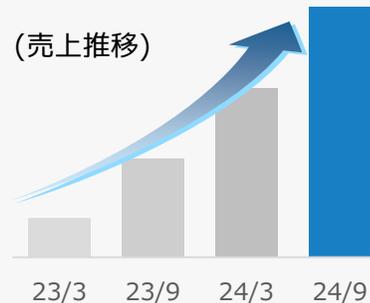


瑞浪展示場 展示会場



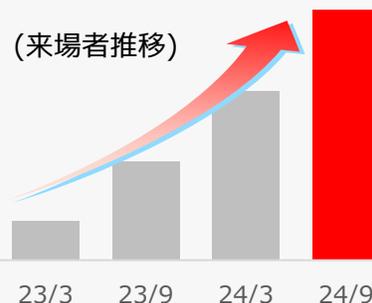
スキャンデータイメージ

データ販売
売上高前年比
250%



来場者数
7,000人
突破

※2023年9月末：約4,000人



展示車数
16台
に拡大

※2023年9月末：10台

潜在顧客
拡大中

自動車メーカー
部品・材料メーカー
官公庁等

車両分解
解析情報
170台超

- 展示車数：2024年10月に**20台に拡大**
- 出張展示会も随時実施し、新聞等メディアへの掲載も多数展開中

[2024/11/11 当社HPにてリリース発表](#)

[\(URL\):国内最大級の電気自動車 \(EV\) 分解部品の展示場をリニューアル - 三洋貿易株式会社](#)

新規ビジネスの開拓 -環境配慮型商材/QOL関連商材-

環境配慮型商材/QOL※商材とは

- サステナビリティ委員会が中心となり、マテリアリティで定められた「環境負荷の低減」や「心豊かな暮らしの提供」に結びつく商材の取扱い拡大を目指す当社独自の活動
- 事業部(室)・グループ会社から半期ごとにデータを収集し、全社での進捗確認

(サステナビリティ推進体制)



※QOL : Quality Of Life

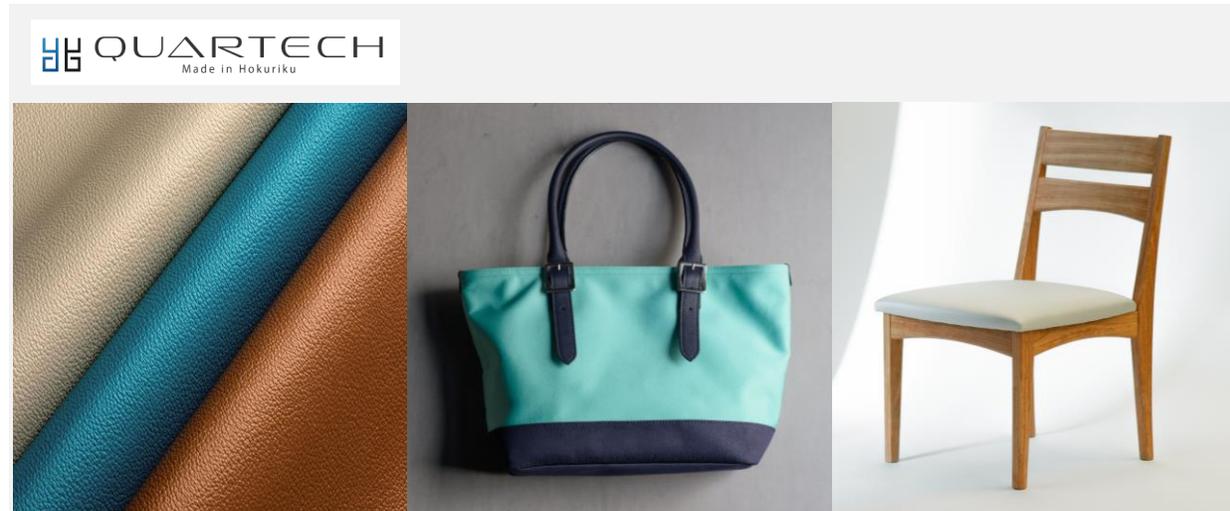
(取扱商材の種類数)
2024年10月
37件

(取扱商材の種類)
2024年4月
33件

サステナビリティ

サーキュラーマテリアル: QUARTECH

- 「繊維から、まるで本革のような新しい生地を作る」
- 化学分野に強い当社と繊維分野に強い森常(株)との共同開発品
 - 環境負荷低減に貢献(リサイクルポリエステルのみモノマテリアル)
 - 将来的には自動車業界への展開も視野に入れ活動中

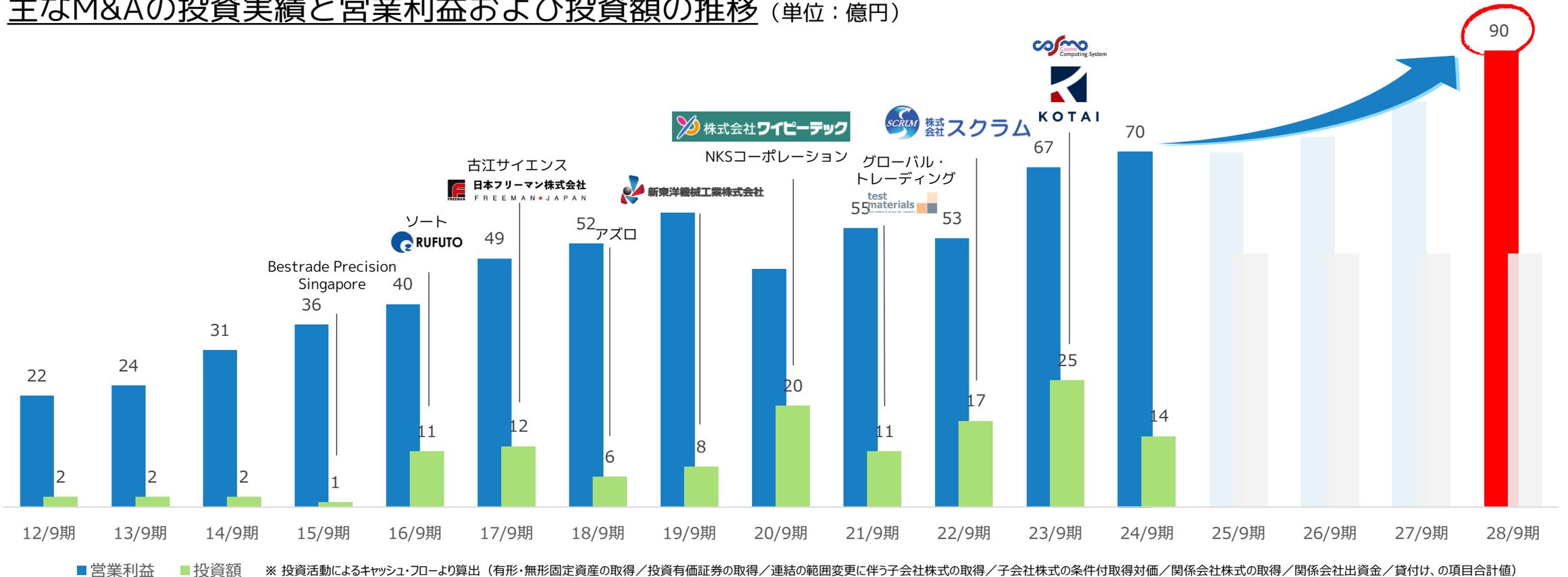


2024/10/2 HPにてリリース発表
(URL):[地球に優しいリサイクル繊維素材「QUARTECH \(クアルテック\)」をFaW TOKYO 2024にてご紹介 - 三洋貿易株式会社 \(sanyo-trading.co.jp\)](https://www.sanyo-trading.co.jp)

M&Aの考え方

- 2028年9月期に向けて攻め筋に沿ったボルトオン投資案件の弾込めは着実に進捗
- 成長分野への投資を加速し、営業利益90億の達成を目指す

主なM&Aの投資実績と営業利益および投資額の推移 (単位：億円)



M&Aを含む投資の基本方針

総額200～300億円の成長投資を予定(24/9～28/9の5年間)

～良質案件を厳選して投資実行～

① 3つの前提条件

事業を強くする
相乗効果

当社の
海外展開加速

将来の
成長性

② 保有方針

長期保有
を原則

自らオーナーシップを持って
事業運営を行う

キャピタルゲイン狙いの
投機はしない

③ 出資比率

マジョリティ取得を基本スタンス

④ 財務規律
(目安)

自己資本比率

50%以上

D/Eレシオ

0.5倍未満

DX関連投資の推進

事業投資

DX関連
投資

人的資本
投資

「コスモ・コンピューティングシステムとの協働でDXへの本格的取組み開始」

「攻め・守り」両面の
DX関連投資を実行

効率化

高付加価値化

事業機会獲得

<取組み具体例> アプリ開発、営業支援、在庫関連、Web開発…

基幹システム「React」始動

2024年10月から稼働開始（予定通りに開発完了）

※ Reacting to challenges and changes. Expanding flexibly

- 販売管理、在庫管理・財務会計などの業務向け基幹システム
- 課題・変化に反応し、柔軟に拡張するシステムとしReactと命名
- 国内グループ会社へ順次導入予定 ⇒ グループ体制強化に繋げる



全機能をグループ会社コスモ・コンピューティングシステムで開発

現状課題・導入目的

Bad 保守ベンダーの人材不足・保守運用コスト増加

Bad ベンダーへの依存体制(機能改善・機能追加への柔軟対応×)

既存システムのOS対応サポート停止を機に改善へ

想定される成果

Good ニーズに応じた柔軟な改善、機能追加への対応

Good 内製による開発・保守コストの削減

Good 将来のDXへの対応可能

Good 業務効率化 : 例)ペーパーレス化・押印を廃止したシステム認証

人的資本投資の推進

「個人のキャリア形成と会社成長のベクトル」

- SANYO VISION 2028で掲げた「人のSanyo」を目指し採用、教育、研修等の人的資本投資を実行
- 自燃型人材増加の施策を実行。多様な人材が長く働き活躍できる仕組みの構築

Sanyo Growth Style 人材の数 × 人材の質

- 採用チャンネルの多様化
(リファラル、スカウト型)
- **Sanyo アカデミー**本格稼働
(OJT制度、投資人材育成)

「誠実な対応で常に挑戦し、最適解を提供できる自燃型人材」を「ありがたい姿」と定義し、社員一人一人の成長、事業開発力やマネジメント力の強化等を支援

Sanyo Governance Code 自由闊達の基盤強化

- BCPの再構築
(防災week、緊急時シミュレーション訓練)
- 国連グローバル・コンパクトへの参加

WE SUPPORT



2024/5/27当社HPにてリリース

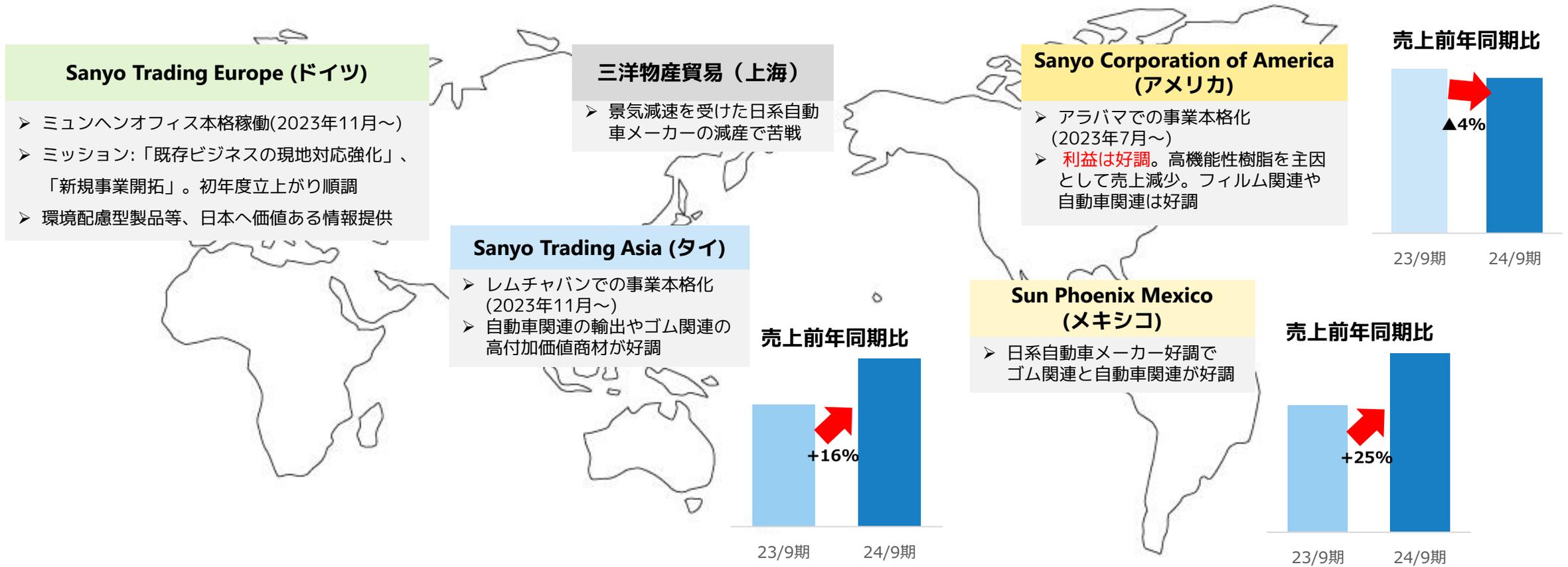
(URL):[国連グローバル・コンパクトに署名 - 三洋貿易株式会社](#)

Sanyo Work Style D&I、多様な人材 多様な働き方の推進

- 育休職場応援手当制度による男性育休取得の促進
(2024年9月期：100%取得)
※2023年9月期：33.3%
- D&I推進week
(2024/8/19～23)

グローバル展開

- 様々な国・地域へのグローバル展開。2024年9月期は利益面で主にアメリカ、タイ、メキシコが牽引
- 2023年に稼働開始の欧州地域(ドイツ)も堅調な立上がり
- グローバル事業部制の深化と、海外拠点展開の推進を戦略的に進めるべく海外事業促進PJチーム立ち上げ



Quest for Next

Appendix

セグメント区分

化成品

グループ会社

- ゴム事業部
- 化学品事業部
- ライフサイエンス事業部
(マテリアルソリューション)
- ケムインター※
- 三洋ライフマテリアル

機械資材

グループ会社

- 産業資材第一事業部
- 産業資材第二事業部
- グリーンテクノロジー事業部
- ライフサイエンス事業部
(科学機器)
- バイオフロンティア事業室※
- エネルギーソリューション事業室※
- 日本フリーマン
- ワイピーテック
- 新東洋機械工業
- 三洋機械工業
- 日本ルフト
- 三洋テクノス
- スクラム
- KOTAIバイオテクノロジーズ
- コスモス商事

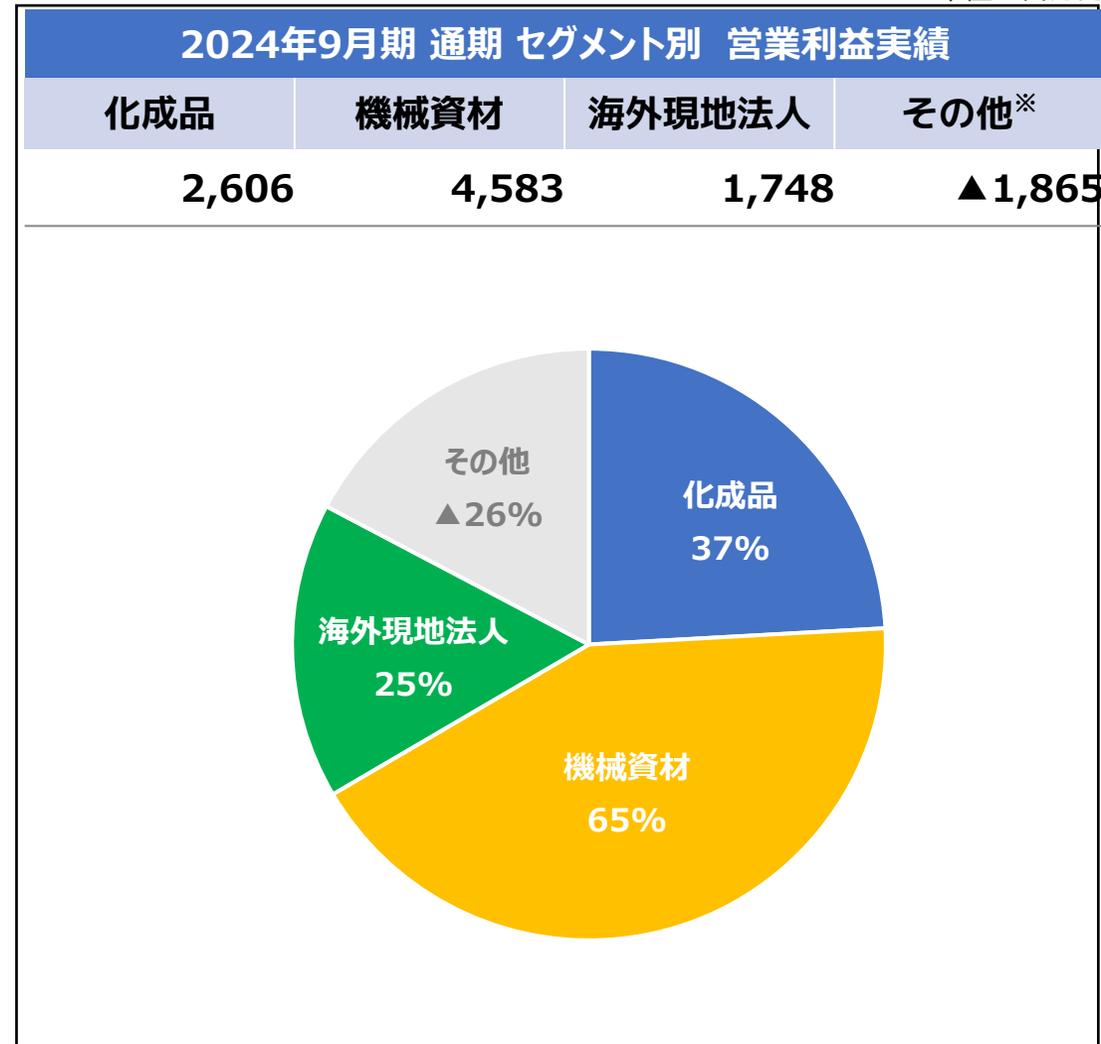
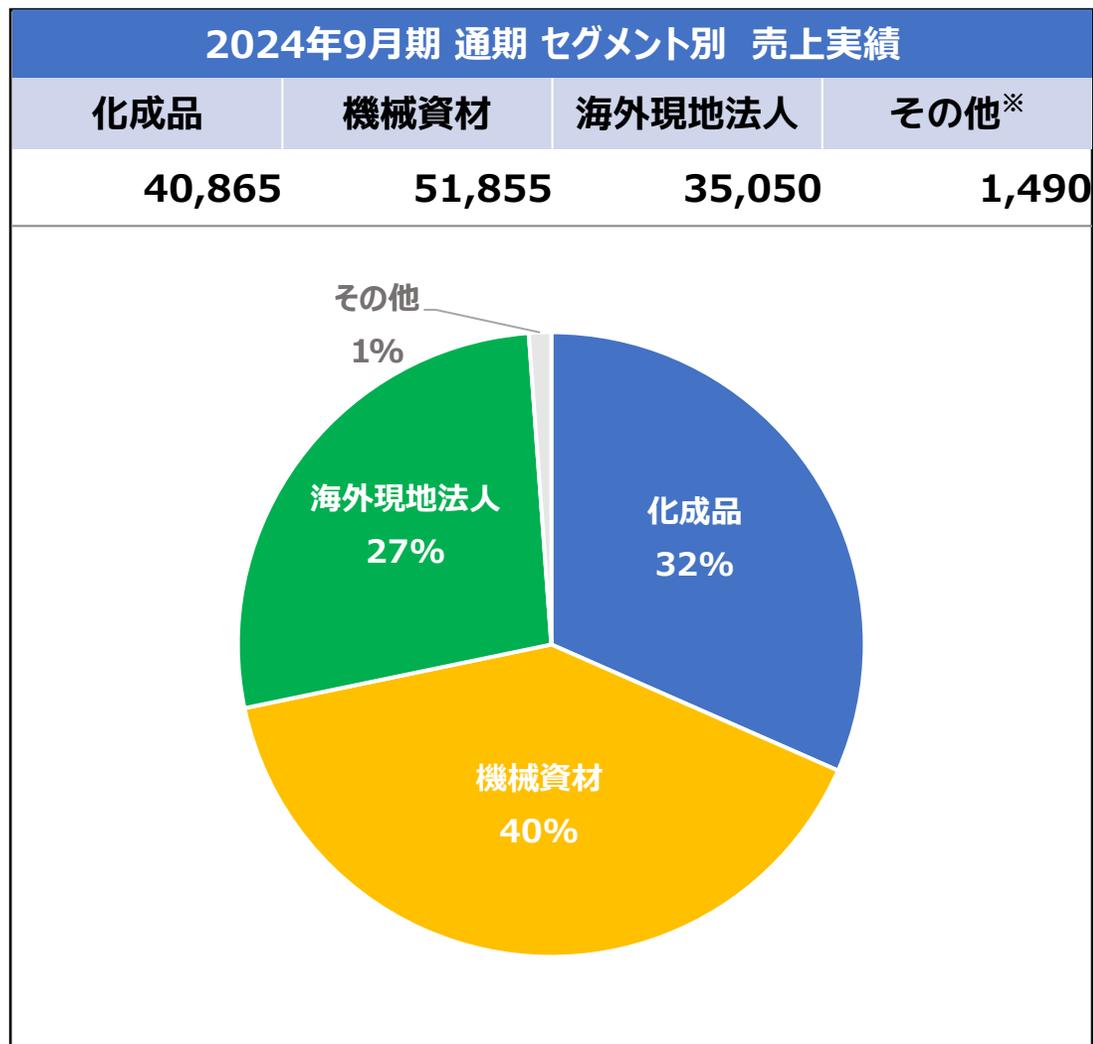
海外現地法人

- SANYO CORPORATION OF AMERICA
- 三洋物産貿易（上海）有限公司
- SANYO TRADING ASIA CO., LTD.
- SUN PHOENIX MEXICO, S.A. de C.V.
- 三洋貿易(ベトナム)有限会社
- PT. SANYO TRADING INDONESIA SANYO TRADING ASIA CO., LTD.
- 三洋貿易インド株式会社

※ケムインター(当社の完全子会社)は2024年10月1日を効力発生日として吸収合併
※2024年4月1日付でバイオフロンティア事業室、エネルギーソリューション事業室を新設
※コスモ・コンピューティングシステム社は報告セグメントに含まれない「その他」に含む

事業ポートフォリオ

単位：百万円



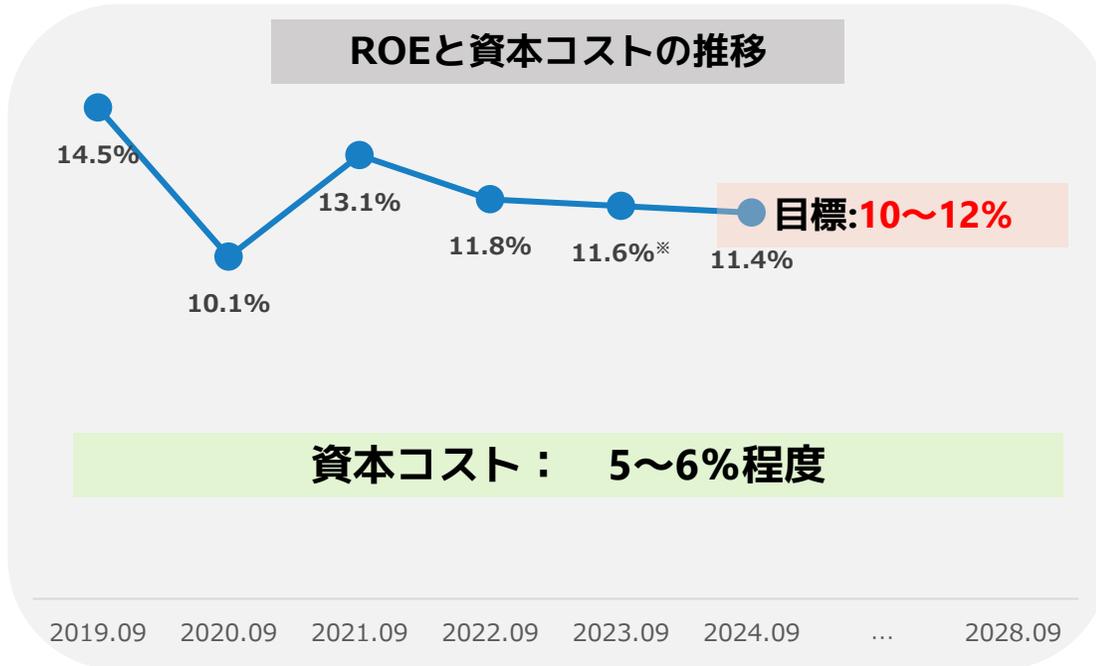
※「その他」は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コスモ・コンピューティングシステム社を含む情報システム事業および不動産賃貸業等を含む
 ※決算短信の記載と合わせ、調整額を含む数値を記載

競合他社との差別化要因

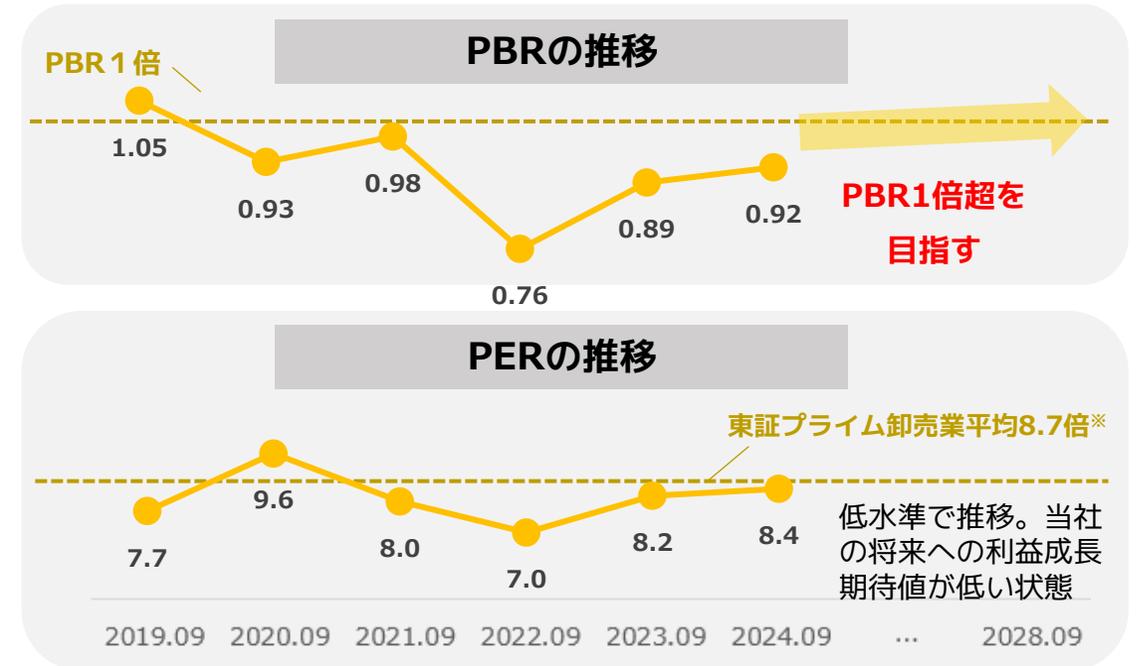
| 市場 | 競合プレイヤー | 差別化要因 |
|----------------|-----------------------------|---|
| ファインケミカル | 国内合成ゴムメーカー | <ul style="list-style-type: none"> ・ アランセオ社をはじめ世界一流合成ゴムサプライヤーとの取引 ・ 海外サプライヤーに対するプレゼンスの高さ ・ 国内/海外日系への共通在庫販売機能 |
| | 化学系商社・メーカー | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高付加価値商品を扱う技術系営業部員の専門知識と技術営業力 ・ 海外サプライヤーに対するプレゼンスの高さ ・ 新規商材(環境配慮型商材等)の開発・獲得に注力 |
| インダストリアル・プロダクツ | 国内外自動車部品メーカー | <ul style="list-style-type: none"> ・ 部品レベルでの一気通貫型のビジネスを展開 ・ 日本品質にカスタマイズした海外の商材の取扱い ・ 自動車内装部材の新ニーズへの対応 |
| サステナビリティ | 木質ガス化熱電併給装置メーカー | <ul style="list-style-type: none"> ・ 飼料用CPM社製ペレットミルのシェアは圧倒的シェア ・ 機器の販売、プラントの設計・施工からアフターサービスまでの一貫対応 |
| | 資源開発系商社・メーカー | <ul style="list-style-type: none"> ・ 資源エネルギー開発のフロントランナーとして高品質の製品・技術の追求 ・ 多種多様な機器ラインナップ取り揃えによる幅広い顧客ニーズへの対応 |
| ライフサイエンス | 輸出：国内外メーカー、日系商社 輸入：化学系商社 | <ul style="list-style-type: none"> ・ マーケットインに根差したグローバルでの商材発掘力 ・ 企業・大学との共同研究による新規商材開発 |
| | 国内科学機器メーカー 科学機器商社 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外の機器を販売からアフターサービスまで一貫対応 |
| | 国内バイオ関連商社・メーカー | <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的なM&Aによるバイオ関連ビジネスの拡大 ・ 遺伝子解析サービス事業の拡充 ・ 新しい研究支援機器ニーズへの対応 |

現状分析 ～資本コストと株価を意識した経営の実現～

- 資本コストは5～6%程度。**ROEは資本コストを上回って推移**
- 「SANYO VISION 2028」で掲げた**ROE目標は10～12%**。資本コストを上回るROEの水準を継続し、**ROE向上への取り組みを継続的に実施しながら、PBR > 1を目指す**



※:為替換算レートの方針変更に伴い2023/9期の実績を遡及修正



※ : 2024年3月末時点

(株主資本コストの考え方) CAPMより株主資本コストを算出

株主資本コスト

=

リスクフリーレート

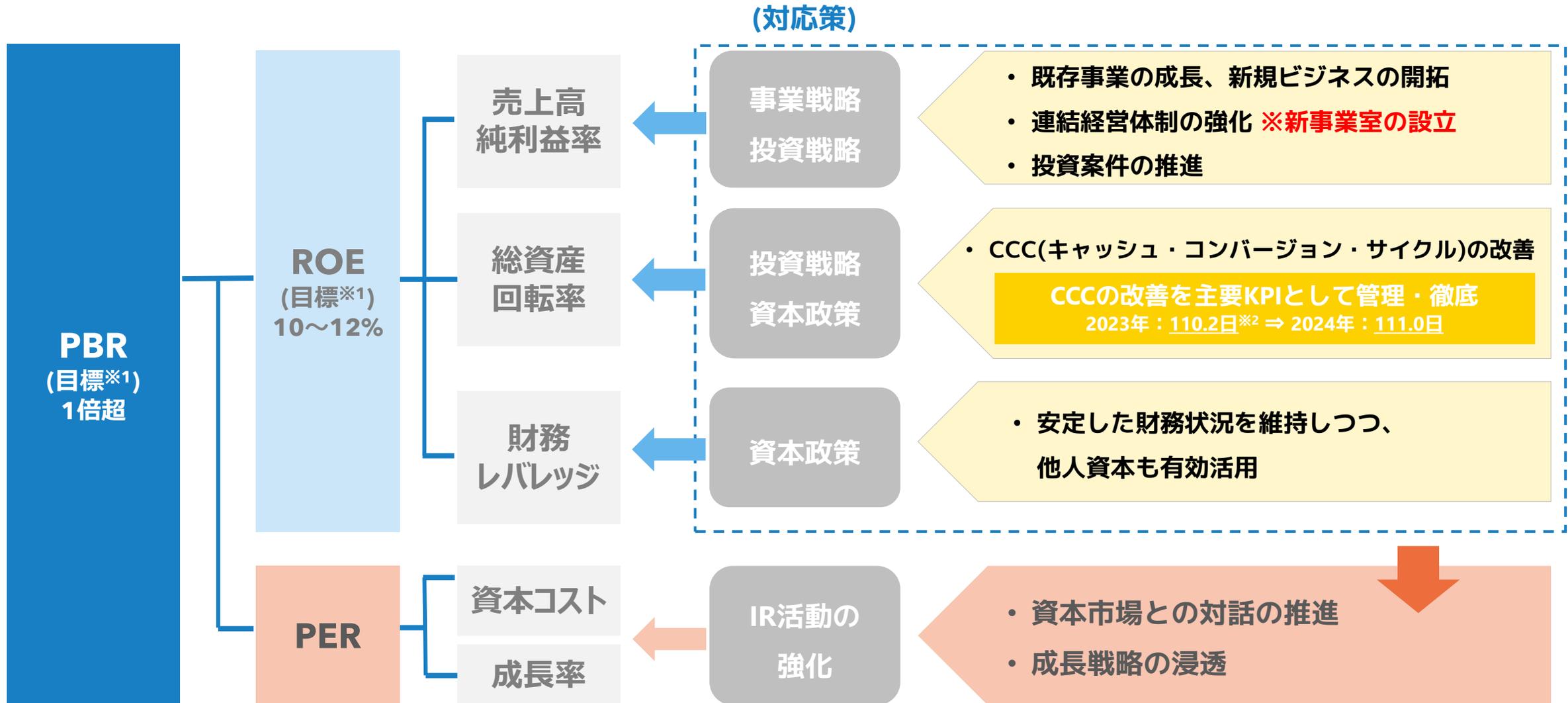
+

β

×

市場リスクプレミアム

PBR目標達成の戦略



※1：「SANYO VISION 2028」で掲げた2028年9月期目標

※2:為替換算レートの方針変更に伴い2023/9期の実績を遡及修正

ROEの構造分析



| | | | | | | |
|----------------------|-----------------|-------------------|----------------------|---------------|---|---------------|
| | Leverage | Asset Turn | Profit Margin | | | |
| | 財務レバレッジ | 総資産回転率 | 売上高純利益率 | | | |
| ROE | = | $\frac{A}{E}$ | × | $\frac{T}{A}$ | × | $\frac{R}{T}$ |
| (実績) 2024年 9月期 | | 総資産 自己資本 | | 売上高 総資産 | | 純利益 売上高 |
| 11.4% | | 1.6倍 | | 1.8回転 | | 4.0% |

厚い自己資本

アセットライトな
ビジネスモデル

高付加価値商材 X サービス =
高収益率

連結貸借対照表

(単位：百万円)

| 資産の部 | 2023年9月期4Q (2023.9末) | 2024年9月期4Q (2024.9末) | 負債の部 | 2023年9月期4Q (2023.9末) | 2024年9月期4Q (2024.9末) |
|-----------|-------------------------|-------------------------|----------|-------------------------|-------------------------|
| 現金・預金 | 7,031 | 8,007 | 支払手形・買掛金 | 11,838 | 12,573 |
| 受取手形・売掛金等 | 24,794 | 26,694 | 短期借入金 | 5,381 | 4,425 |
| 棚卸資産 | 23,429 | 25,180 | その他流動負債 | 5,441 | 8,594 |
| その他流動資産 | 2,033 | 3,225 | 長期借入金 | 333 | 50 |
| 有形固定資産 | 3,238 | 3,160 | その他固定負債 | 1,651 | 1,931 |
| その他固定資産 | 8,010 | 9,130 | 純資産 | 43,890 | 47,821 |
| 資産合計 | 68,537 | 75,397 | 負債純資産合計 | 68,537 | 75,397 |

【ポイント】

- 運転資金増加、その他固定資産増加を利益および借入で賄う

| | 2023年9月期4Q (2023.9末) | 2024年9月期4Q (2024.9末) |
|---------|-------------------------|-------------------------|
| 有利子負債比率 | 13.2% | 9.4% |
| 自己資本比率 | 63.4% | 63.3% |

算出方法) 有利子負債比率 : 有利子負債 (※1: リース債務除く) ÷ 自己資本 (※2)
自己資本比率 : 自己資本 ÷ 期末総資産

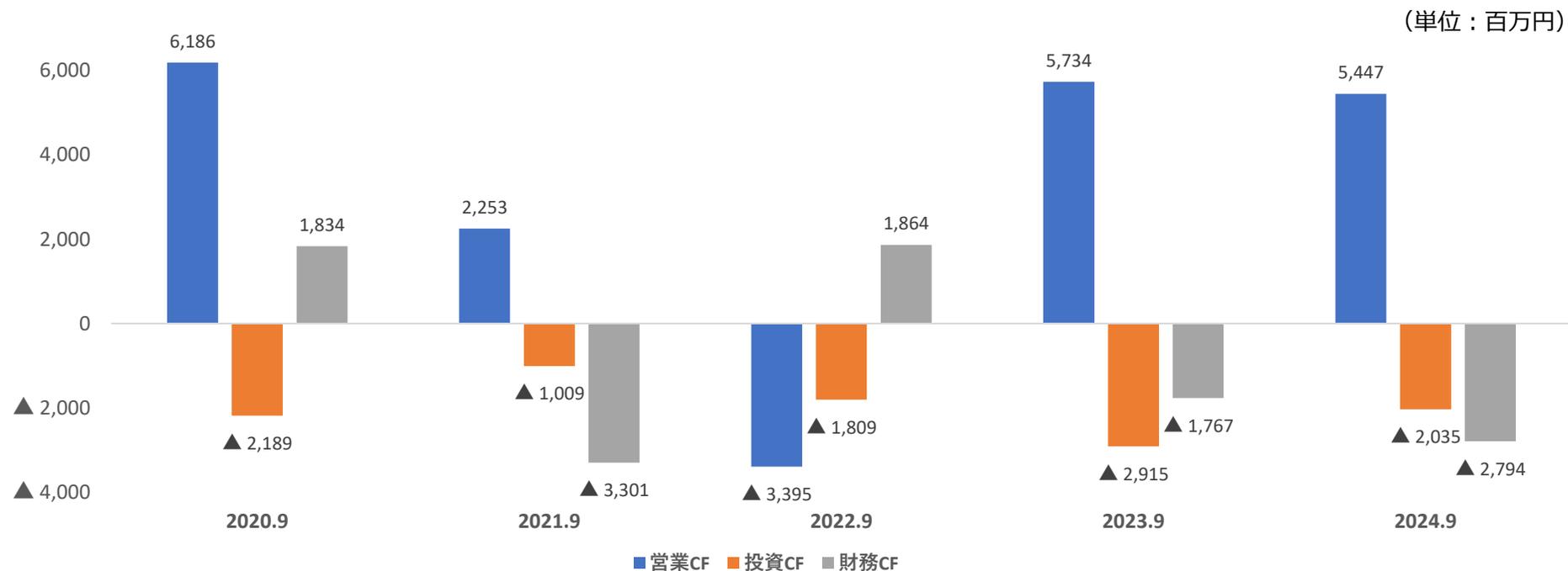
(※1) 有利子負債 = 短期借入金 + 長期借入金
(※2) 自己資本 = 純資産 - 新株予約権 - 非支配株主持分

連結キャッシュフロー

営業CF：適切な在庫管理等により黒字継続

投資CF：定期預金の預入や固定資産の取得による支出

財務CF：配当金の支払や短期借入金の返済



| | 2020.9 | 2021.9 | 2022.9 | 2023.9 | 2024.9 |
|----------------|--------|---------|---------|--------|--------|
| 営業CF+投資CF+財務CF | 5,831 | ▲ 2,057 | ▲ 3,340 | 1,052 | 618 |
| 現金及び現金同等物の残高 | 10,418 | 8,663 | 5,718 | 6,900 | 7,367 |

IRに関するお問い合わせ先

三洋貿易株式会社 執行役員 経営企画部長 難波 嘉己

電話：03-3518-1052 e-mail：ir@sanyo-trading.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。